

平成30年度第2回名寄市総合計画審議会

冬季スポーツ拠点化事業の現状と課題



現 状

冬季スポーツ拠点化事業・全体像

- ・ 冬季ナショナルトレーニングセンター誘致
- ・ 冬季ジュニアスポーツ指導者の育成
- ・ 冬季ジュニアアスリートの育成
- ・ 幼少期運動能力向上・底上げ
(教育機関等との連携)
- ・ 冬季スポーツ合宿・大会誘致

※パラスポーツを含む取り組み



冬季スポーツの
アスリートが
集まる街へ

地域の連携を活かして、生涯にわたりスポーツで活躍のできる場所づくり



市内病院・大学などの機能を活かして、市民の健康と幸せを生み出す、スポーツ文化づくり

スポーツに
慣れ親しんだ、
健康な市民が
暮らす街へ

- ・ スポーツによる市民の健康づくり事業
- ・ スポーツによる子育て支援事業
- ・ スポーツによる企業等支援事業
- ・ スポーツイベントによる出会づくり



拠点化事業の先に**冬季版ナショナルトレーニングセンター**誘致



ナショナルトレーニングセンター（NTC）とは？

「スポーツ振興基本計画」（2000年9月文部省告示）を受けて設置されている、日本のトップレベル競技者用トレーニング施設。中核拠点（東京都北区）である「味の素ナショナルトレーニングセンター」と競技別強化拠点（国内各地）がある。

- ◎ NTC中核拠点施設は北京オリンピックに間に合わせて約370億円かけて国が設置。独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）が管理し、JOCが運用。JOC加盟団体所属の競技選手強化目的で利用されている。隣接地には国立スポーツ科学センターがあり、NTC中核拠点と連携している。
- ◎ JOCエリートアカデミーが設けられ、ジュニア期からトップアスリート育成され、平成25年度は中学1年から高校3年まで（レスリング14名、卓球19名、フェンシング11名 計44名）育成されている。



NTCの主な施設

◎屋内トレーニングセンター

3F：体操、バレーボール、バドミントン 2F：ハンドボール、バスケットボール

1F：柔道、卓球 B1F：ボクシング、ウェイトリフティング、レスリング

◎陸上トレーニング場ウエイトトレーニング室



◎屋内テニスコート

ハードコート2面：テニス全米オープンおよび車椅子テニス全米オープンの開催地「フラッシング・メドウズ」と同等のコート面)

アンツーカコート2面：テニス全仏オープンおよび車椅子テニス全仏オープンの開催地「ロラン・ギャロス」と同等のコート面)



◎アスリートヴィレッジ宿泊室（シングル・ツイン・和室）

- サウナ付き大浴場
- 栄養管理食堂
- 研修室





陸上トレーニング場

国立スポーツ科学センター

屋内テニスコート

屋内トレーニングセンター

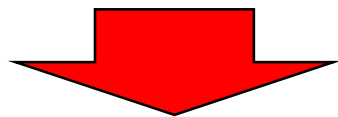
アスリートヴィレッジ
(宿泊施設)

冬季版ナショナルトレーニングセンター誘致活動

日本スポーツ振興センター（JSC）との意見交換会



「先ずはジュニア育成のノウハウを蓄積することが重要」
ジュニア育成ノウハウ⇒人材・環境・システム・研究



地域財産を活用したトレセン化

これまでの取り組み

H28-29年度主な取り組み

国内ジュニア育成



日本スポーツ振興センター及び北海道との連携によるジュニア育成事業

幼少期動能力向上



スキーをイメージした幼児運動教室

医学サポート



市立病院によるジュニアアスリートの医学サポート（採血など）

コーチ養成



国内外からトップコーチ招へいしコーチ養成プログラム実施

ジュニアキャンプ



競技を超えて、市内ジュニア選手によるトレーニングキャンプ

学校体育・少年団サポート



学校と少年団部活動の両輪で支援

地域健康づくりサポート



市立大学による町内会健康づくり支援

冬季スポーツ大会誘致



JOCジュニアスキー大会

企業・事業所支援



企業等の健康づくり支援

国内外のトップレベルのジュニア育成を学ぶプログラムの実施



海外トップコーチによる
ジュニア育成・コーチ養成プログラム
H29コーチ
・ ユルキ・ウォテラ（ヴォカティススポーツ）



名寄ジュニア育成シンポジウム
H29シンポジスト

- ・ ユルキ・ウォテラ（ヴォカティススポーツ）
- ・ 久世 由美子（競泳）
- ・ 阿部 雅司



市街地スプリント

多目的広場
シューティング



速 撃
支 技

—— 地域で育てる力!! 名寄から世界へ羽ばたけ! ——



市民サポート



冬季五輪・金メダリスト
阿部雅司がプロデュース
新しい
地域一体型育成システム構築



自動車学校
テクニカル

北海道タレントアスリート発掘・育成事業 ※JSC事業（委託先：北海道） ～バイアスロン／名寄産業高校～



小足 さくら
(こあし さくら)



松岡 実優
(まつおか みゆう)



上田 千春
(うえた ちはる)

学年	2年生	2年生	1年生
出身	東神楽町出身	千歳市出身	札幌市出身
バイアスロンを始めたきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> 小学校からクロスカントリースキーをはじめ、タレント発掘・育成事業をきっかけにバイアスロンに転向した。 	<ul style="list-style-type: none"> タレント発掘・育成事業をきっかけにクロスカントリースキー・バイアスロンを始めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校からクロスカントリースキーをはじめ、タレント発掘・育成事業をきっかけにバイアスロンに転向した。
中学での主な戦績	<ul style="list-style-type: none"> 中学校3年時にクロスカントリースキーの北海道大会で優勝し、全国中学では3位となった。 		<ul style="list-style-type: none"> 中学校3年時にクロスカントリースキーの北海道大会で優勝し、全国中学に出場した。
高校での主な戦績	<ul style="list-style-type: none"> ジュニア日本代表に選出 イマトラ大会パシュート4位(フィンランド) バイアスロン世界ユース大会出場 	<ul style="list-style-type: none"> クロスカントリースキーでインターハイに出場 	

課 題

課題①：JSCとの連携

課題②：スポーツコミッション設立

課題①：JSCとの連携による冬季拠点化事業推進構想（案）

■ポイント

- 短期的には、WPN(北海道)を通じてJSCと連携し、地域の資源を活かしたタレントアスリートの育成環境を整備。
- タレントアスリートの育成を通じて得られたノウハウやシステムを名寄市内のジュニアアスリートやその指導者へ広く展開。
- 中長期的には、NTC誘致を見据えて、JSCとの連携強化し、名寄市立総合病院ま、または名寄市立大学内にジュニアスポーツ医科学センターの設置を目指す。

■JSCとの連携による冬季拠点化事業推進に関する計画（案）

	2017-2018	2019-2022	2023-2026	2027-2030
国内外の動き	◆ 平昌オリ・パラ(2018.2)	◆ 2026年・2030年オリ・パラ開催都市の決定?(2019.9) ◆ ローザンヌYOG(2020.2) ◆ 北京オリ・パラ(2022.2)	◆ YOG(2024) ◆ シオンオリ・パラ?(2026)	◆ YOG?(2028) ◆ 札幌オリ・パラ?(2030)
名寄市の動き	◆ 名寄市におけるジュニア育成システムの整備が始まる ・ 道庁TID事業連携 ・ 医学サポート(名寄市立病院)、科学サポート(名寄市立大学) ・ 指導者養成プログラムの開始 ・ 少年団・部活動の整備・統合 ◆ 宿泊・トレーニング施設の整備計画が検討される	◆ 宿泊・トレーニング施設の改修が始まる ・ なよろ温泉サンピラーの改修 ・ 競技施設の改修 ・ フィジカルトレーニング施設の設置・改修 ◆ 名寄市立病院、又は市立大学にジュニアスポーツ医科学センターが設置される	◆ ノルディックスキーとバイアスロン、カーリングのジュニアナショナルチームの育成拠点となる ◆ ジュニア世界選手権ワールドカップ等の国際大会が開催される	◆ ノルディックスキーとカーリングにおけるアジアを代表するジュニアの育成拠点となる ・ 海外のジュニアチームの合宿の受入が活発になる
JSCと連携し、地域の資源を活用した世界基準のジュニアの育成環境を構築				
JSCとの連携	◆ WPN(道庁)を通じて、JSCによるジュニア育成に関する指導・助言が始まる ・ スポーツ医学サポート等に関する指導・助言 ・ (宿泊・トレーニング施設の整備に関する指導・助言)	◆ 国際競技力向上の観点から名寄市の冬季スポーツ拠点化に関する包括的な指導・助言 ・ 名寄市スポーツ推進計画策定に助言	◆ 名寄市からとJSCに職員派遣が始まる	◆ 冬季版NTCとして指定される

課題②：スポーツコミッション設立

【組織】 ジュニア育成とその環境を整備する組織

総合型スポーツクラブ運営

育成
部門

企画
経営
部門

データ部
門

管理部門

広報
部門

アカ
デミー
経営

ス
クール
経営

渉
外

コン
サル

分
析

人
事

財
務

施
設

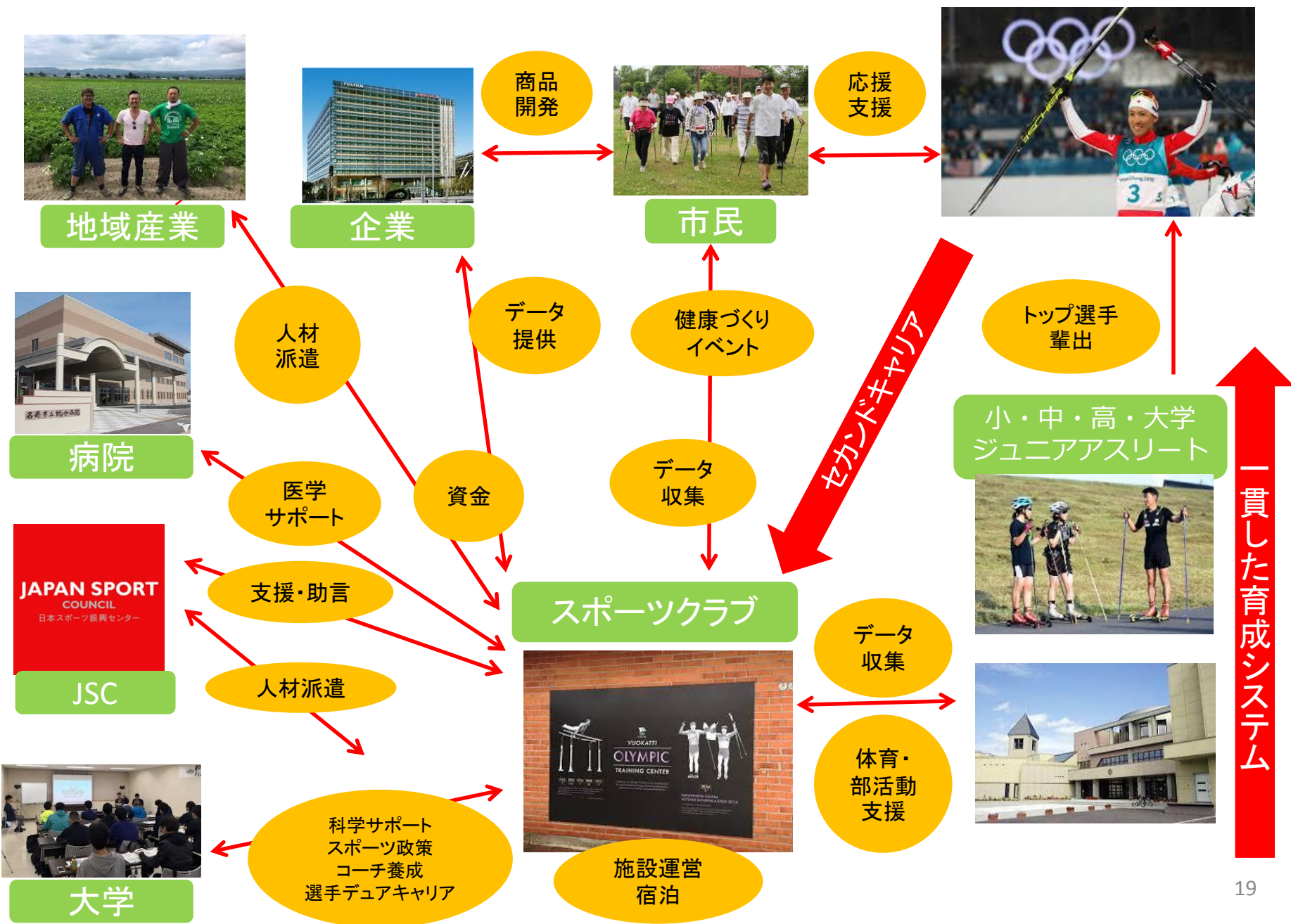
市
民
向
け

対
外
向
け

【事業内容】

部門	区分	内容
育成部門	アカデミー経営	<p>アスリート向け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任コーチ、トレーナーを配置し、競技別の技術指導等 ・少年団、部活動にコーチ派遣 ・学校体育授業支援 ・アスリートの測定、測定データ蓄積
	スクール経営	<p>一般向け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツによる健康づくり教室 ・スポーツイベントの実施 ・市民の測定、測定データの蓄積
	コーチ養成	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア育成に携わるコーチを対象としたスポーツ科学に関するプログラム提供、個別サポート ・コーチ養成講座の開設
企画経営部門		<ul style="list-style-type: none"> ・蓄積したデータを活用した自走化の財源確保 ・人材派遣 ・地域スポーツ政策イノベーターカレッジの開催
データ部門	分析 コンサル・渉外	<ul style="list-style-type: none"> ・育成部門で蓄積したデータを分析し、アスリートのスポーツ科学サポートに活用 ・育成部門で蓄積したデータを分析し、一般向けの健康サポートに活用
管理部門	施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ジム等のスポーツ施設運営 ・公共施設の管理運営(日進ヘルシーゾーンのスポーツ施設)

【総合型スポーツクラブによる拠点化事業推進イメージ】



【名寄市立大学の役割】



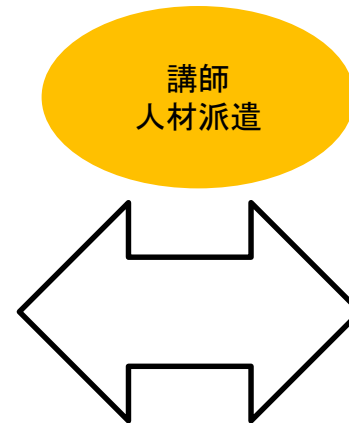
スポーツ科学センター新設

- ジュニアの競技力向上に必要な、トレーニング、栄養、心理、技術サポート等を行う



スポーツ政策 イノベーターカレッジ

- 寄付講座
- 学びの場・短期研修会
- JSCから講師派遣
- スポーツで地域の社会課題を解決



日本スポーツ振興センター



コーチ養成プログラム

- 公的機関の受講認定
- 地域の競技力向上の基礎となる指導者向けの講習会

デュアルキャリア

- 進学、競技継続

【競技施設・大学・病院等を活かしたトレーニングセンター化】

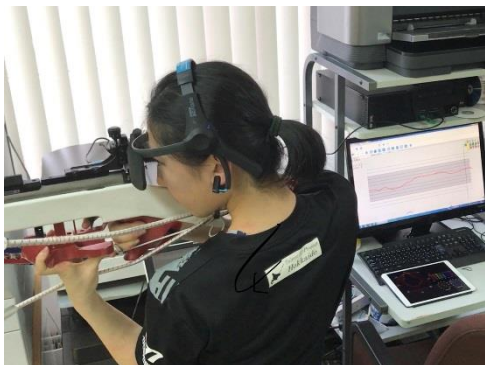
概要

名寄市が有するアスリート育成に関する資源(競技施設、高校・大学、宿泊施設、病院)を活かした、ジュニア育成に重点を置いた環境・育成プログラムの構築＝トレーニングセンター化を推進する。

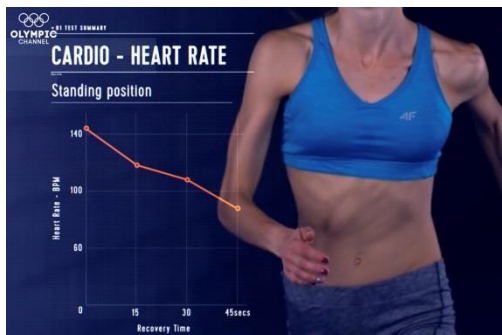
課題

	コーチ育成の受け皿(クラブ等)	競技施設(健康の森、ピヤシリシャンツェ)	名寄産業高校 名寄市立大学	宿泊施設 (サンピラー温泉等)	名寄市立総合病院
全般的な課題	<p>テーマ 「世界基準のコーチング」</p> <p>① ICCE等の枠組みに準拠したコーチング</p> <p>② 持続可能な育成の受け皿(部活動・クラブチーム)</p> 	<p>テーマ 「世界基準の育成施設」</p> <p>① 健康の森におけるトレーニングルーム・ラボ、ローラースキーコース、選手控え室の新設・拡充</p> <p>② ピヤシリシャンツェにおけるミディウムヒルの整備(散水・安全ボード等)</p> 	<p>テーマ 「デュアルキャリア(競技と学業の両立)」 「ジュニア育成・スポーツ科学に関する研究・人材養成」</p> <p>① 名寄産業高校を進学先とした道TID事業(バイアスロン)との連携</p> <p>② 名寄市立大での広域連携を含むアスリートの受入</p> <p>③ 名寄市立大によるジュニア育成・スポーツ科学に関する研究・人材養成</p>	<p>テーマ 「アスリートを対象とした合宿施設」</p> <p>① アスリート・コーチ向けの(1)食事(2)宿泊室、(3)リカバリー施設、(4)ミーティングルームの設置</p> <p>② 長期滞在仕様の宿泊室</p> <p>③ サンピラーと健康の森との間のアク</p> 	<p>テーマ 「スポーツ医学サポート」</p> <p>① メディカルチェックの対象選手の拡充</p> <p>② アスリートやコーチの求めるスピード感のある対応</p> <p>③ 名寄市立総合病院ならではの医学サポートシステム構築</p> 
喫緊の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 「クロスカントリースキー」、「バイアスロン」の支援 ● スポーツ科学を活用できるコーチの不足 ● 「クロスカントリースキー」、「バイアスロン」における専任コーチの不在 	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ科学サポートに関するハードの不足 	<ul style="list-style-type: none"> ● 名寄市立大におけるジュニア育成やスポーツ科学を専門領域とした教員の不在 ● 名寄市立大におけるスポーツ科学に関するハード・ソフト(ノウハウ)の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ栄養学を活用したアスリート向けの食事の提供 ● 障がい者アスリートへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の中核病院であり、救急救命センターを有するため、病院側にスポーツ医学サポートを拡充する体力があるか不透明 ● スポーツ医・科学サポートに関するハード・ソフト(ノウハウ)の不足

データ活用～イメージ～



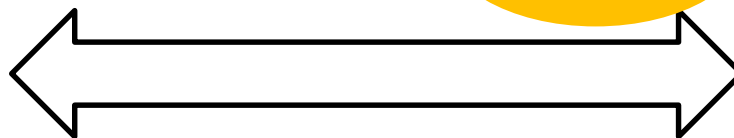
測定・データの蓄積



動作分析
レース等分析

運営資金
調達

アスリート
データ活用



スポーツ・健康福祉系企業等



映像技術サポート
情報技術サポート

アスリートキャリアパス ～イメージ～

紹介

キャリア
アップ

紹介・奨学金

引退



移行期・デュアルキャリア

- 海外留学（フィンランド等）
- 大学（筑波・早稲田）
- JSC等で研修



オリンピック・パラリンピック出場

- 名寄市民の誇り
- 名寄を全国・海外に発信

- ・コーチ
- ・スポーツマネージメント
- ・他業種のリーダー

社会人経験

**JAPAN SPORT
COUNCIL**
日本スポーツ振興センター

- 海外（フィンランド・
- 民間企業
- JSC・JOC等

NAYORO



日本代表

育成・デュアルキャリア

- ・コーチ
- ・スポーツマネージメント
- ・他業種のリーダー

受け皿づくり

【総合型スポーツクラブ設立の課題】

区分	項目	課題
ひと	コミッション立上・運営	マネージャー人材確保（+スタッフ）
	クラブ運営	競技別専任コーチ・育成スタッフ
	地域コーチ	ネットワーク化
	クラブ資金調達	データ活用 人材派遣
もの	クラブハウス	新設 日進ヘルシーゾーン
	トレーニング環境	ジャンプ台（NH MH）改修 夏用ローラースキー新設 スキートンネル新設 バイアスロン用射撃場新設 夏用カーリング場新設 健康の森陸上競技場のリニューアル（トレーニング仕様）
	宿泊施設	なよろ温泉サンピラー活用 or 健康の森周辺に新設
ひと ※関係機関	スポーツ科学	スポーツ専門の人材 スポーツ科学センター設置
	スポーツ医学	スポーツ専門ドクター確保 スポーツ外来の設置

【総合型スポーツクラブ設立グランドスケジュール】

組織

事業

2018年

準備会社設立運営

- ・ステークホルダーへの説明
- ・組織の構築

- ・企業の提携
- ・データを一部のグループで蓄積はじめる
- ・育成プログラムのプロトタイプの実施

2019年

データ蓄積と実績の見える化

- ・協力企業・団体（市内外）との連携の開始

- ・育成プログラムの公式始動
- ・取得データの見える化、ビジネスドメインの整理と発信

2020年

本事業全体の見える化と情報発信

- ・クラブチーム、データによるビジネスマッチング、施設運用、育成プログラムの本格始動とプロモーション

- ・施設拠点での育成プログラムの開始
- ・データ取得や分析、利活用のフィールドとして本格的な事業展開

H30年度の取り組み

平成30年度冬季スポーツ拠点化推進プロジェクト予算概要

冬季スポーツ拠点化を実現するため、その核となる「なよろスポーツ合宿誘致推進協議会」を自走化させた、スポーツコミッション組織を立ち上げを目指す。また、本市の環境（自然・施設・大学・病院）を活かしたジュニアアスリートの育成環境と市民の健康づくり環境を整えながら、スポーツ・運動を通じた地域づくりに取り組む。

1. 冬季スポーツ推進・健康づくり 17,781千円

- プロジェクト推進の核となる「なよろスポーツ合宿友推進協議会」の支援
 - ・冬季スポーツを通じた、地域活性化に係わる施策検討
 - ・冬季スポーツを通じた、地域のコミュニティー創生と健康づくりの研究
 - ・各種冬季スポーツの普及・振興

2. ジュニアアスリート育成 10,473千円

- ジュニアアスリート育成に関わる測定機器購入
- ジュニアアスリート・指導者養成プログラム
- ヴォカティスポーツ相互交流

3. スポーツ合宿等誘致 14,705千円

- プロジェクト推進の核となる「なよろスポーツ合宿友推進協議会」の支援（再掲）
 - ・ヴォカティスポーツ視察 ※育成・合宿に適したスポーツ施設管理運営等の検討
 - ・ホストタウン事業
 - ・大会用計測機器借上



背景・目的

- 冬季スポーツにおける様々な環境が整っていること、各種事業が取り組まれていることは広く認識されているが、これらを連携させた効果的な地域づくりに繋がっていない。
- 少子化・人口減少に伴い、特に農村地区における公共サービスが低下するとともに、小学校閉校が続き、地域住民の交流の場が徐々に失われつつある
- 冬季スポーツを楽しむ人が減っており、雪質日本一、冬を楽しく暮らす条例がありながら、長い歴史をかけて築き上げてきた冬季スポーツの歴史が危機的な状況

主な事業概要

- 冬季スポーツを通じた、地域活性化に係わる施策検討
 - ・ **施策研究グループ活動費 700千円**
協議会の自走化の財源確保のためスポーツ関連データの活用を研究。企業と連携したスポーツ産業の研究。
- 冬季スポーツを通じた、地域のコミュニティー創生と健康づくりの研究
 - ・ **地域健康づくりプログラム 700千円**
大学・東風連町内会・企業が連携した「東風連真冬の大運動会」を実施し、コミュニティー創出と健康づくりに関連したデータセンシングにより、農村地区の健康づくりに取り組む。

主な事業概要

- 各種冬季スポーツの普及・振興
 - ・ **人件費 11,482千円**
阿部特別参与によるクロスカントリースキー、ノルディックウォーキング等の講習会等の開催、小学校との連携による児童の体力向上を図る。
 - ・ **冬季スポーツPR映像等作製 2,000千円（新）**

効果・狙い

- 「なよろスポーツ合宿誘致推進協議会」の支援を行うことで、改めて冬季スポーツの振興を図るとともに、冬季スポーツ等の合宿の受入れによる交流人口の拡大や、大会開催等の誘致を行ない地域活性化を図る。また、協議会を自走化させ、冬季スポーツによる地域づくりを加速化させ、地域産業の発展、雇用創出に繋がっていく。
- 国が掲げるスポーツ市場業規模を5.5兆円から15兆円に経済発展を見込む中で、新たなスポーツ関連産業の創出により雇用機会を増やしていく。
- 町内会・大学・企業・行政が連携し、冬季スポーツ等を取り入れた運動プログラムの提供により、住民の健康づくり・地域コミュニティーを創生する。
- 冬季スポーツの普及、子供たちの体力底上げを図るとともに、冬季スポーツ文化を根付かせ、冬季スポーツによる地域づくりを浸透させていく。

背景・目的

- 各競技におけるジュニア育成については、指導者の経験則に基づきトレーニングが構築されており、トレーニング効果を高めることができていない。
- 少年団・部活動の指導において学校教員が関わるのが難しくなっている状況で、父兄や外部からの指導者が増えている。指導者がコーチング等を学ぶ機会が少ない。
- ジュニアスポーツ全般において、競技レベルが低く、全道・全国で活躍する選手が少ない。

主な事業概要

- 測定機器等購入
 - ・トレーニング用品 281千円
 - ・動作分析・統計分析備品 5,191千円（新）
- ジュニアアスリート・指導者養成
 - ・ジュニアコーチ養成プログラム 1,951千円
 - ・なよらのちから！ドリーム合宿 700千円
 昨年はJC主催。合宿誘致協議会で継続実施し、ジュニア育成を図る
- ヴォカティスポーツ相互交流
 - ・ヴォカティスポーツ相互交流 2,100千円（新）
 ボカティスポーツにクロカン・ジュニア選手及びコーチ派遣。ジュニアの競技力向上と交流を図る。

効果・狙い

- 機器を使った動作分析等によりスポーツ科学サポートによる効果的なトレーニングを構築することが可能となる。競技力向上により全道・全国レベルのジュニアアスリートが輩出できる。
- 測定・分析データ蓄積により、スポーツ科学を活用した名寄市独自のジュニア育成プログラムが構築できる。
- 質の高いジュニアコーチ養成により、ジュニア競技のレベルアップを図るとともに、競技の枠を超えたコーチ交流により、名寄市全体の指導レベルの向上が図られる。
- フィンランドでノルディックスキー競技のNTCに位置付けられているヴォカティスポーツとの選手・コーチの相互交流を行い競技力向上を図る。
- スポーツ医・科学を活用したジュニア育成の取り組みを学会等で発表し、“育成の街”をPR。NTC誘致につなげる。
- スポーツ医・科学の取り組みを市立病院、市立大学と連携することで、世界基準の育成環境を構築。NTC誘致を目指し、トレセン化を図る



H30スポーツ科学を活用したジュニア育成・コーチ養成事業

アクション

アウトプット

アウトカム

インパクト

スポーツ科学サポート

スポーツ科学サポート

- U-18バイアスロン・クロカン選手を対象とした**スポーツ科学サポートの実施**
- U-15、U-12クロカン選手を対象とした**スポーツ科学サポートの実施**

トレーニングログ・測定データの収集

- U-18バイアスロン・クロカン選手を対象としたスポーツ科学に関する**トレーニングログと測定データの収集**
- U-18バイアスロン・クロカン選手を対象としたスポーツ科学に関する**トレーニングログと測定データの収集**

コーチ養成

- 冬季競技のコーチを対象としたスポーツ科学に関する**コーチ養成プログラムの実施**
- 冬季競技の**コーチ**を対象としたスポーツ科学に関する**個別サポート**

ジュニア育成に関する研究・開発

- U-18、U-15、U-12バイアスロン・クロカン選手の育成やコーチ養成に関する**研究**

コーチ養成プログラム

研究・発表

サポートする選手

- U-18バイアスロン・クロカンのジュニア選手【3名】
- U-15、U-12クロカン選手【U-15 3名、U-12 15名】

トレーニングログ・測定データ

- U-18バイアスロン・クロカンのジュニア選手のトレーニングログ・測定データ【3名】
- U-15、U-12クロカン選手のトレーニングログ・測定データ【U-15 3名、U-12 15名】

サポートするコーチ

- コーチ養成プログラムを受講する**コーチ【15名】**
- 個別にスポーツ科学に関するサポートを行う**コーチ【4名】**

講演資料・論文

- 名寄市のジュニア育成に関する講演・広報資料の作成【2点】
- 名寄市のジュニア育成に関する論文の執筆【2点】

全国・国際大会出場選手の輩出

- U-18バイアスロン・クロカン**選手の国際大会や全国大会での活躍**【国際大会1名、全国大会2名】
- U-15クロカン**選手の全国大会出場**【1名】



名寄市にジュニア育成システムが構築される

- スポーツ科学を活用した**トレーニングプログラムの開発**【クロスカントリースキー・バイアスロンver2】
- スポーツ科学を活用した**コーチング**ができる**コーチの養成**【4名】



名寄市が「育成の街」として国内外から認知される

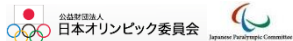
- 国内外のシンポジウムやカンファレンス**で名寄市のジュニア育成に関する発表をする【2回】
- 国内の**学会**で名寄市のジュニア育成に関する発表と論文が掲載される【学会発表2回、論文投稿2回】
- 専門誌や新聞(全国版)**等に名寄市の育成に関する記事が掲載される【専門誌2回、新聞1回】

国や競技団体の強化拠点の誘致・指定

- NTC誘致
- 競技別強化点の誘致
- 冬季競技タレント発掘・育成事業等の育成拠点到指定



スポーツ庁



スポーツ留学・合宿の誘致

- 名寄産業高や名寄市立大への**スポーツ留学生の増加**
- 名寄市内で**合宿をする選手やチームの増加**



背景・目的

- スポーツ合宿・育成環境の整備にあたり、明確な方向性が定まっていない。
- 冬季スポーツ拠点化事業において、地域一体となる取り組みが不足している。
- ヴォカティスポーツは地域との関りが深く、大学・企業・軍・教育が深く関わっている。本市が有する機関と類似しており、冬季スポーツ拠点化事業を地域一体となった取り組みを進める上で参考となる。

主な事業概要

- ヴォカティスポーツ視察
 - ・ **ヴォカティスポーツ視察 5,250千円（新）**
世界各国からアスリートが集まる環境を学び、本市の合宿・育成環境の在り方を研究する。若手の経済界・コーチ等を中心に視察団を結成する予定。10月頃予定。
- ホストタウン事業
 - ・ **ホストタウン関連合宿誘致活動 200千円**
 - ・ **バトミントン競技モニター合宿 1,450千円（新）**
- 大会用計測機器借上
 - ・ **クロスカントリースキー計時機器借上 4,899千円**

効果・狙い

- ヴォカティスポーツの視察を通じて、拠点化事業の理解者を増やし、行政だけではなく地域一体となった取り組みに発展させる。また、拠点化を目指す上で、ハードだけに頼らない、人材の配置やソフト事業（育成目線）の充実による育成・合宿環境の必要性について、市民理解を深める。
- ボカティスポーツの成り立ちを手本に、名寄独自のジュニア育成・合宿システムの構築を目指すとともに、協議会の自走化の参考とする。
- ホストタウン事業の推進により、2020年東京オリ・パラの機運を高めていく。また、誘致活動において、繋がりを持つことができた中華バトミントン協会と連携を図りながら、ジュニアのモニター合宿を実施し、2020東京オリンピックの直前合宿誘致につなげていく。
また、ジュニアモニター合宿を通じて、本市のバトミントン競技のレベルアップを図る

